

訓練初日（16:00～21:00）

訓練想定：地震発生後 2 日目に、指定避難所の西豊田小体育館（訓練会場隣）で、避難生活が困難である要配慮者に対し、避難所運営者が曲金会館を自主的な福祉避難所として開設することを決めて、要配慮者が移動してきたという設定でリアル HUG がスタートした。※今回の訓練は DCAT が想定する活動期間とはフェーズが異なる設定であったが、避難所運営の雰囲気を知ることと、要配慮者へのアセスメントを体験してもらうことを目的に訓練に参加をした）

訓練会場となった曲金会館。テント泊や車中泊も行われた



リアル HUG のスタート（16:50～）要配慮者の方が受付



障害者、高齢者の他に、聴覚障害者役、視覚障害者役、認知症高齢者役、知的障害者役、妊婦役、外国人役など多くの要配慮者役の姿も。



聴覚障害者役の方が受付をしている場面。受付側は地元町内会の地域住民。自主的な福祉避難所であるため、運営者は町内会の地域住民が各班に割り振られ、それぞれ運営を担当している。



訓練参加者である要配慮者の受付が全て完了した後に、静岡市から曲金会館に DCAT 派遣要請があり、派遣されたという想定で、DCAT 6 名が到着。

運営本部にて、運営責任者に DCAT 到着と活動開始の報告をした後、会館内のレイアウトについて説明を受ける。



要配慮者支援班班長から要配慮者の情報を確認中。



DCAT メンバーによる要配慮者へのアセスメントの様子。(研修で使用したアセスメントシート等を参考に行った)

活動に向けて打合せを行う。2人1組で分担して行うことを決めた。



アセスメントの開始



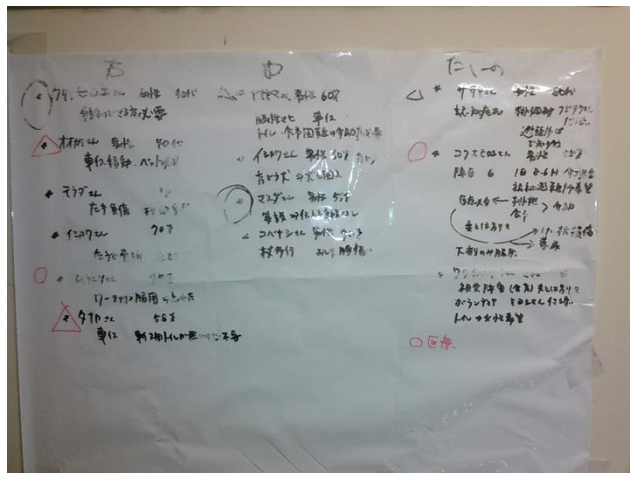
障害者の方にアセスメントを行う。



視覚障がい者、車椅子の方にアセスメントをする。



アセスメント後に本部にてそれぞれが行ったアセスメント内容を可視化し、共有するためのミーティングを実施。
写真は無いが、打合せ後に運営本部会議に参加し、運営責任者に医療支援が必要な方、指定福祉避難所への移送が必要と判断した方を報告した。



訓練終了後、宿泊者はテントや簡易ベッドを会場内に設営をして宿泊をして翌朝を迎えた



訓練 2 日目 (8:30~11:30) 静岡 DCAT 移送支援用具の体験講座

DCAT メンバーが移送支援用具の使い方をレクチャーし、参加者に操作方法を学んでもらい、実際に用具の体験をしてもらった。

レスキューボードの体験

(DCAT:瀧浪さん、宮崎さん 所属:(福)天心会)



参加者で体験をしてもらう。



子どもたちにも分かりやすく説明を行う。



子どもや女性でも使用可能で、災害時に、子どもにも手伝えることがあること、支援者になれることを実感してもらう。



JINRIKI の体験 (DCAT:高杉さん 所属:(福)峰栄会)



子どもや障害者も一緒に参加し、体験をしよう。



子どもにも操作が可能で、災害時に、子どもにも手伝えることがあること、支援者になれることを実感してもらう。



ベルカの体験 (DCAT:樽井さん 所属:静岡手をつなぐ育成の会)



ベルカの使い方を説明。



障害がある方も持ち手として移送支援を担えることを実感。



障害者の方をお願いしてベルカに寝ていただき、実際に移送支援を体験していただいた。



